

新製品開発状況補足資料(2017年5月10日現在)

① 自己免疫疾患

治験コード 製品名 (一般名)	補足説明
レミケード (インフリキシマブ[遺伝子組換え])	世界初の抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤。日本で、2002年にクローン病治療剤として発売。その後、関節リウマチ、ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎、乾癬、強直性脊椎炎、潰瘍性大腸炎、腸管型・神経型・血管型ベーチェット病の治療剤としての適応も取得。
FTY720 イムセラ (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的アンタゴニスト。リンパ球のリンパ節からの移出を抑制することで免疫調整作用を発揮し、多発性硬化症におけるミエリンの破壊(脱髄)を防止する。国内ではノバルティスファーマと共同で開発し、2011年に多発性硬化症治療薬として製品名「イムセラ」で発売。ノバルティスが日米欧で製品名「ジレニア」で発売。慢性炎症性脱髄性多発根神経炎でフェーズ3(国際共同治験)。日本ではノバルティスファーマとの共同開発。
MT-1303	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的拮抗剤。リンパ球のリンパ節からの移出を抑制し、自己免疫反応を抑制する。イムセラ/ジレニアの後継品。

② 糖尿病・腎疾患

治験コード 製品名 (一般名)	補足説明
TA-7284 カナグル/インヴォカナ (カナグリフロジン水和物)	SGLT2選択的阻害剤。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。2型糖尿病の適応で、日本では製品名「カナグル」で2014年9月に発売、2017年3月に台湾で承認を取得。ヤンセンファーマシューティカルズが米国で製品名「インヴォカナ」として、また、その関係会社が欧州で販売中。メトホルミンとの合剤[即放性製剤]は欧州で2014年4月、米国で2014年8月に承認を取得した。さらに、2016年9月、米国でメトホルミンとの合剤[徐放性製剤]の承認を取得した。
MP-513 (テネリグリブチン臭化水素酸塩水和物)	DPP-4阻害剤。食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない2型糖尿病治療剤。日本では、製品名テネリアで2012年9月に発売。
MT-2412 (テネリグリブチン臭化水素酸塩水和物、 カナグリフロジン水和物)	テネリグリブチン(DPP-4阻害剤)とカナグリフロジン(SGLT2阻害剤)の合剤。
MT-3995	選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗剤。腎保護作用を示す。
MT-6548	低酸素誘導因子プロリン水酸化酵素阻害剤。アケビア(米)から導入。

③ 中枢神経系疾患

治験コード(一般名)	補足説明
MP-214 (カリブラジン塩酸塩)	ドパミンD3/D2受容体パーシャルアゴニスト。統合失調症の陽性症状に加え、陰性症状や認知機能障害にも効果が期待される。ゲデオン/ヒター(ハンガリー)より導入。
MT-210	セロトニン2A / シグマ2 受容体拮抗剤。
Wf-516	モノアミンレセプターに対する多重作用(選択的セロトニン取り込み阻害/セロトニン1A受容体拮抗/ドパミン取り込み阻害/α1Aとα1Bアドレナリン受容体の調節)。

④ ワクチン

治験コード(一般名)	補足説明
MT-2355	阪大微生物病研究会(日)と共同開発の5種混合ワクチン。 小児における百日せき、ジフテリア、破傷風、急性灰白髄炎およびHib感染の予防。
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン。インフルエンザ[H5N1]の予防。
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン。季節性インフルエンザの予防。
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン。インフルエンザ[H7N9]の予防。

⑤ その他疾患

治験コード 製品名 (一般名)	補足説明
ノバスタン (アルガトロバン水和物)	自社創製品の選択的抗トロンピン剤。
MT-4580	カルシウム受容体作動剤。
Y-39983	血管平滑筋を弛緩させるROCK(Rho-キナーゼ)阻害作用をもつ薬剤。
MCC-847 (マシルカスト)	ロイコトリエンD4受容体拮抗剤。
Y-803	BRD-ヒストン結合阻害剤。